金融研究センター ディスカッションペーパーの紹介

金融庁金融研究センターでは、当センターにより採用・委嘱された研究員等が、研究成果を取りまとめた「ディスカッションペーパー」を公表しています。本稿でもその一部について掲載いたします。

～最近掲載されたディスカッションペーパーのご紹介～

◆ 昭和の金融行政 100年の歴史にみる効率性と公共性のバランス

金融庁金融研究センター特別研究員　横山 和輝
（名古屋市立大学大学院経済学研究科教授）

◆ ASEAN主要国の金融システムの構造 ー発展的観測
シンガポール、ベトナム、フィリピンの位置づけ

金融庁金融研究センター専門研究員　三重野 文晴
（京都大学東南アジア地域研究研究所教授）
金融庁金融研究センター専門研究員　平田 礼王
（埼玉学園大学経済経営学部専任講師、京都大学東南アジア地域研究研究所連携講師）

👉その他のディスカッションペーパーについても、金融研究センターウェブサイトを是非ご覧ください。

編集後記

アクセスFSAをご覧いただき、ありがとうございます。ウロコ雲が空に浮かび、金木犀が香るなど、めっきり秋らしくなってきましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？

今月号では、先月就任された谷川とむ副大臣と根本拓大臣政務官の初登頂や訓示式等における様子を紹介しています。訓示式において、お二人から温かい励ましの言葉と副大臣・大臣政務官としての決意をいただきました。

また、10月６日には「昭和100年」関連シンポジウムを開催しました。名古屋市立大学大学院経済学研究科の横山和輝教授による研究報告に続き、有識者によるパネルディスカッション等が行われました。「古を鏡とすれば興亡を知る」という中国の古典の言葉にも表れているように、これまでの先人たちの取組を振り返ることで、今後の政策立案への気づきを与えてくれる有意義なものになりました。関連資料は金融庁ウェブサイトにも掲載されていますので、ご関心ありましたら、ぜひご覧ください。

さらに、海外への意見発信は極めて重要であり、強化すべき分野ですが、海外投資家等に対して日本の金融・資本市場の魅力や政府の取組を発信する企画として、今年もJapan Weeksを開催します。特に、10月26日から10月30日まではコアウィークとし、様々な魅力的なイベントが開催されますので、ぜひ注目していただければ幸いです。

加えて、今年で11回目となる金融業界横断的なサイバーセキュリティ演習「Delta Wall 2026」を開催しています。根本大臣政務官もご挨拶されたように、フロンティアAIの登場含めサイバー攻撃の脅威が増大化・高度化する中で、防御だけではなく、攻撃を受けた後の対応や復旧、業務継続体制の確認が不可欠となっております。なお、昨今、様々な業態において不正アクセスが相次ぎ、本人確認書類の画像を含む、顧客情報が漏洩するサイバーインシデントが発生していることを受け、10月9日、金融庁から各金融機関等に対し、対応状況の速やかな点検や必要な措置を求める注意喚起を発出しました。

ここまで読んでいただきありがとうございます。来月号もお楽しみにしていただけますと幸いです。

金融庁広報室長　小澤 裕史
編集・発行：金融庁広報室

（※本稿において意見に係る部分は筆者の個人的見解であり、所属組織の見解を示すものではありません。）